

第2節 土製馬形品について

(1) 土製馬形品について

土製馬形品とは古代において特殊な祭祀に使用されたと考えられる稚拙な造りの形状の小型土製模造馬のことである。大形のものでも体長20～30cm程度にすぎず、焼成によって土師質のものは土馬、須恵質のものは陶馬と呼んで区別している。

土製馬形品はその形態的特徴により次のように分類される。

A類 馬具として、面繫・胸繫・尻繫・轡・手綱・鞍・鐙などが粘土の紐や板の貼付手法によって着装されるもの。

B類 馬具として鞍のみが粘土の板の貼付手法によって着装されているが、他の馬具、たとえば手綱や尻繫などが線描き手法で表現されているもの。

C類 馬具として鞍のみしか認められないもの。

D類 馬具としては何等認められない裸馬のもの。

今回小山田遺跡より出土した土製馬形は3固体分であるが、体部と足の一本を残すものを1号土馬、足の一本分を残し、馬具の表現の残るものを2号土馬、太い足を一本だけ残すものを3号土馬と呼称する。

3点の土製馬形品はその残存状況から1・2号土馬は上記分類からA類に該当する。以下、遺物の概略を述べる。

①1号土馬

本調査で出土した土製土馬で最も残存度の高いものである。左前足の一本が残り、残りの3本足と、頭部を欠く。胴体部は中空であり、筒状のものに粘土を巻きつけて整形したと考えられる。胴部から頭部までを一本で作上げ、足を作り、馬具の表現を粘土紐によって行なったと考えられる。また、正面の胸部、後部の尻部、腹部にはそれぞれ篋状工具による穴があげられている。全体的に作りはシャープである。焼成はやや不良で土師質である。

②2号土馬

左足の一本のみが残る。足は篋による丁寧な調整が施されている。また、粘土紐による馬具を表現し、貼り付けている。焼質は良好で須恵質である。

③3号土馬

足が一本だけ残る。足は篋による調整が施されている。但し他の2体と比べると足が太く作られているのが特徴である。焼質は良好で須恵質である。

(2) 土製土馬品の年代について

土馬の年代については残存度のよい1号土馬で検討してみると1号土馬の作りは非常に盛行に作られており、馬具の表現も轡部(手綱)、鞍部(鞍、障泥、尻繫)が残っており当時の馬装を考える上で貴重な例となった。胴体部も中空で作られている。これは古墳時代的製作技法の系譜を引くものと考えられる。また、奈良県藤原京跡出土の土馬(7世紀後半)や四国でも同時期に近い遺物とされる徳島県庄遺跡出土(8世紀の遺物と考えられている)と比較しても全体的なシャープさや他に例の少ない馬具の精巧な作りは小山田遺跡出土の1号土馬の方が時期的にも先行する要素が見受けられ、また共伴する出土土器とあわせて考えると、7世紀の中期から後期への間、いわゆる西暦650年以降から藤原京の造営以前(680年頃)の時期と考えられる。

(3) 高知県内出土の土製馬形品について

高知県内からは3遺跡より合計3体の土製馬形が出土している。中村市古津賀後川の川床より陶質の裸馬が1体、南国市岡豊町小蓮字山崎の高知医科大学敷地内より陶質飾馬1体、安芸市川北江川小字豊作より陶質飾馬1体が出土している。現在3体とも実物の所在は不明で以下、岡本健児氏⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾並びに井本葉子氏⁽⁴⁾⁽⁵⁾の論文を参考に遺物の概要を述べる。

中村市古津賀後川の川床から出土した土製馬形品は陶質(須恵質)で馬具の表現がない裸馬である。

南国市岡豊にある高知医科大学敷地内出土の土製馬形品は陶馬で、高さ1m、直径2.5m程の泥砂盛土中より弥生土器、土師器、須恵器などと伴に出土しているが厳密な意味での陶馬共伴遺物は不明である。

出土した陶馬は四肢・頸部・頭部・尾部が各々欠損している。現存体長約15cm、胴部の径は6.2cmで、完形品であれば土製馬形品としては大形のものと考えられる。胎土は精選されたきめ細かな粘土で、中に白っぽい砂粒を若干含んでいる。

体内部は充実しており大きな粘土塊から陶馬の形をひねり出した後、指オサエや指ナデで整形、さらに一部分篋ミガキを行っている。鞍は元は粘土帯の貼付けで表現していたらしいが現在では剥落しておりわずかに痕跡をとどめているにすぎない。尻繫・手綱等は篋状の工具を用いて沈線で乱暴に描いている。分類はB類に属する陶馬である。

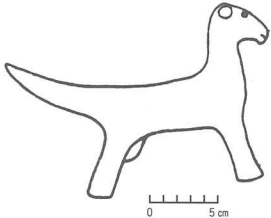
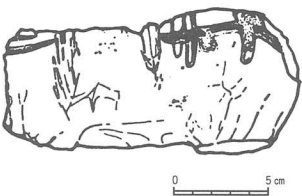
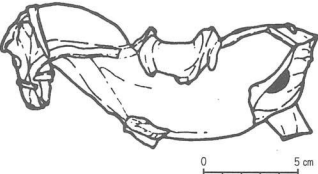
安芸市川北江川豊作出土の陶馬は四肢と尾部を欠損している。粘土帯の貼付けで馬具を表現している。A類に属する。

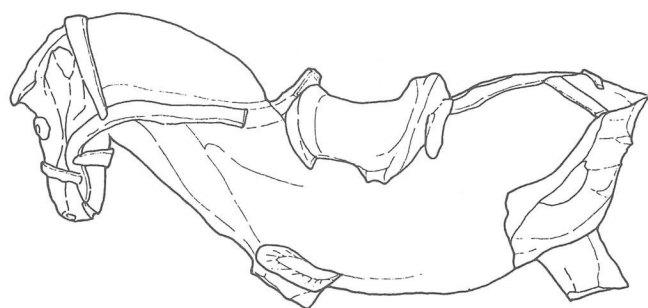
註

- (1) 岡本健児 『高知県の考古学』 吉川弘文館 1966 P 174
- (2) 岡本健児 「考古学からみた祭祀と葬制」『南国市史』 上巻 南国市 1979 P 465～471
- (3) 岡本健児 「陶馬とその祭祀(1)(2)」『土佐神道考古学』 高知県神社庁 1987 P 55～60
- (4) 井本葉子 「土製馬形品の新資料」『土佐史談152号』 1980 P 28～31
- (5) 井本葉子 「高知県の祭祀遺跡について」『高知の研究』 第1巻 清文堂 1983 P 333

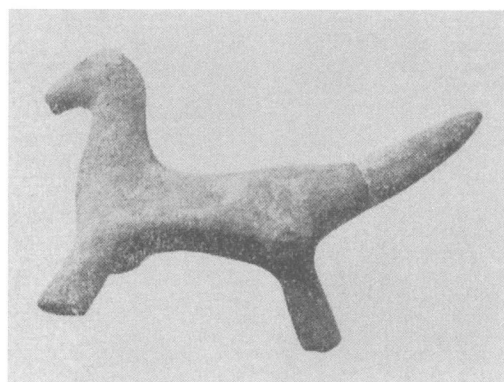
参考文献

『律令制祭祀論考』 菊地泰明 編 塙書房 1991

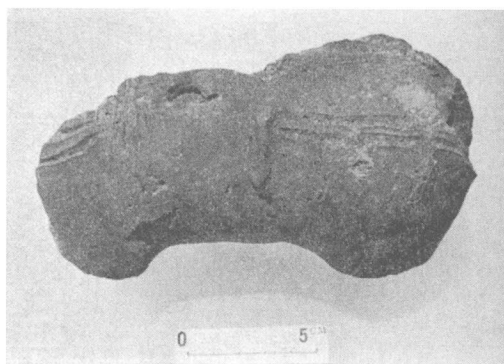
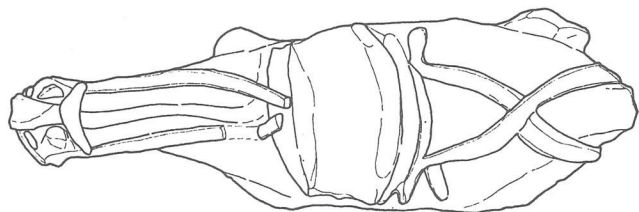
| 出 土 地 | 分 類 | 形 態 | 文 献 |
|----------------------------------|------------|---|---|
| 中村市古津賀 後川川床 | 陶 質 裸 馬 |  | 岡本健児『高知県の考古学』 『高知県史』 「四国」『神道考古学講座』 「土佐神道考古学(23)陶馬とその 祭祀(2)」『高知県神社庁報』1977 |
| 南国市岡豊町 小蓮字山崎 高知医科大学 敷地内 | 陶 質 飾 馬 |  | 岡本健児「土佐神道考古学(23)陶馬とその 祭祀(1)」『高知県神社庁報』1977 井本葉子「土製馬形品の新資料」 『土佐史談152号』1980 岡本健児「考古学からみた祭祀と葬制」 『南国市史』1980 |
| 安芸市川北江川 小字豊作 | 陶 質 飾 馬 |  | な し |



安芸市川北江川豊作出土



中村市後川出土



南国市山崎出土

図32 参考資料・高知県内出土土製馬形品一覧表・実測図・写真